

共同受注により地域外の受注を確保し、高付加価値産地ブランド商品を開発した研磨事業者のグループ

新潟県燕市の「磨き屋シンジケート」は、燕商工会議所と産地内の研磨事業者が2003年1月に結成した共同受注グループである。洋食器や金属ハウスウェア等の金属製日用品の産地であり、地場産業を支える金属研磨業者が集積し、研磨に関する工程が一通り揃っている強みを背景に、共同受注により地域外からの受注を確保するとともに、高付加価値の産地ブランド商品を開発している。

商工会議所内に問い合わせ窓口を設置して受注を一本化し、最適な技術を有する事業所が加工を行っている。従来は産地内企業からの受注が多かったが、本取組により産地外の自動車、半導体、原子力発電所部品関連の受注を新たに確保している。2005年からは金属加工業者等とも連携を行い、受注は2003年の5倍にまで増加している。大学など研究機関からの受注により、研磨の持つ可能性を再認識した効果もあった。

また、「磨き屋シンジケート」ブランドによるステンレス製ビアマグカップを開発した。半導体装置やi-podにも取り入れられている研磨技術を活用したもので、1万円を超える価格にもかかわらず納品待ちが18ヶ月の人気商品となっている。

「磨き屋シンジケート」ブランドのビアマグカップ

